資料４－１

報道資料

実はここにも 総務省
MIC Ministry of Internal Affairs and Communications

平成 25 年５月 28 日

統計におけるオープンデータの高度化

総務省は、政府統計のポータルサイトである e-Stat などで広く公開している政府統計データについて、より高度な利用を可能とする取組についてまとめました。

○　総務省統計局は、政府統計の中核的機関として、人口や事業所・企業、消費など国の基幹となる重要な統計を作成しております。データ提供の面においても、e-Stat を通じ広く公開してきました。

（政府統計の総合窓口(e-Stat)　http://www.e-stat.go.jp）

○　現在、政府全体でオープンデータへの取組を推進しているところですが、これらの取組をリードする総務省として、政府統計の情報提供のかたちを更に高度化すべく検討を行い、独立行政法人統計センターと協力し、トップランナーとして次のような取組を進めています。具体的には次の３つです。

①ＡＰＩ機能による統計データの高度利用環境の構築
②統計ＧＩＳ機能の強化
③オンデマンドによる統計作成機能・方策の研究

○　今般、統計局所管の統計データについて、①のＡＰＩ機能の導入を６月上旬から試行運用開始します。
　更に、②の統計ＧＩＳ機能強化についても、本年秋を目途に試行運用を開始する予定です。
　統計データの利活用を促進することで、ビジネス活性化や新規事業開発などを支援してまいります。

○　統計は国家社会の情報インフラであり、今般の取組を進めていくことにより、統計のより便利で高度な利活用を実現し、社会経済の発展に貢献してまいります。

（連絡先）
【統計におけるオープンデータ政策全般】
統計局統計情報システム課
担当：松下補佐　星野係長
直通　03-5273-1007
FAX　03-3203-8358
【研究内容・試行運用関係】
（独）統計センター　経営企画室
担当：赤谷課長代理
直通　03-5273-1206
FAX　03-5273-1290

統計におけるオープンデータの高度化

総務省統計局

▶ 政府統計の中核的機関である総務省統計局は、(独)統計センターと協力し、大量・多様な統計データの提供方法を次世代化し、データの高度利用を可能とする以下の取組を実施
　オープンデータ推進のトップランナーとして政府の取組を先導

1.　API機能による統計データの高度利用環境の構築

2.　統計GIS機能の強化

3.　オンデマンドによる統計作成機能・方策の研究

▶ これにより、官民における統計データ利活用の高度化を促進し、新たな付加価値を創造するサービスや革新的な事業の創出などを支援

総務省統計局

1　API機能による統計データの高度利用環境の構築
－大量・多様な統計データの機械的処理－

▶ 政府統計のポータルサイト『e-Stat』に、新たにAPI機能（Application Programming Interface）を付加するとともに、蓄積された統計データを機械判読可能な形式に変更することで、次のようなことが可能に

① 利用者の情報システムにe-Statのデータを自動的に反映

② ユーザー保有やインターネット上のデータ等と連動させた高度な統計データ分析

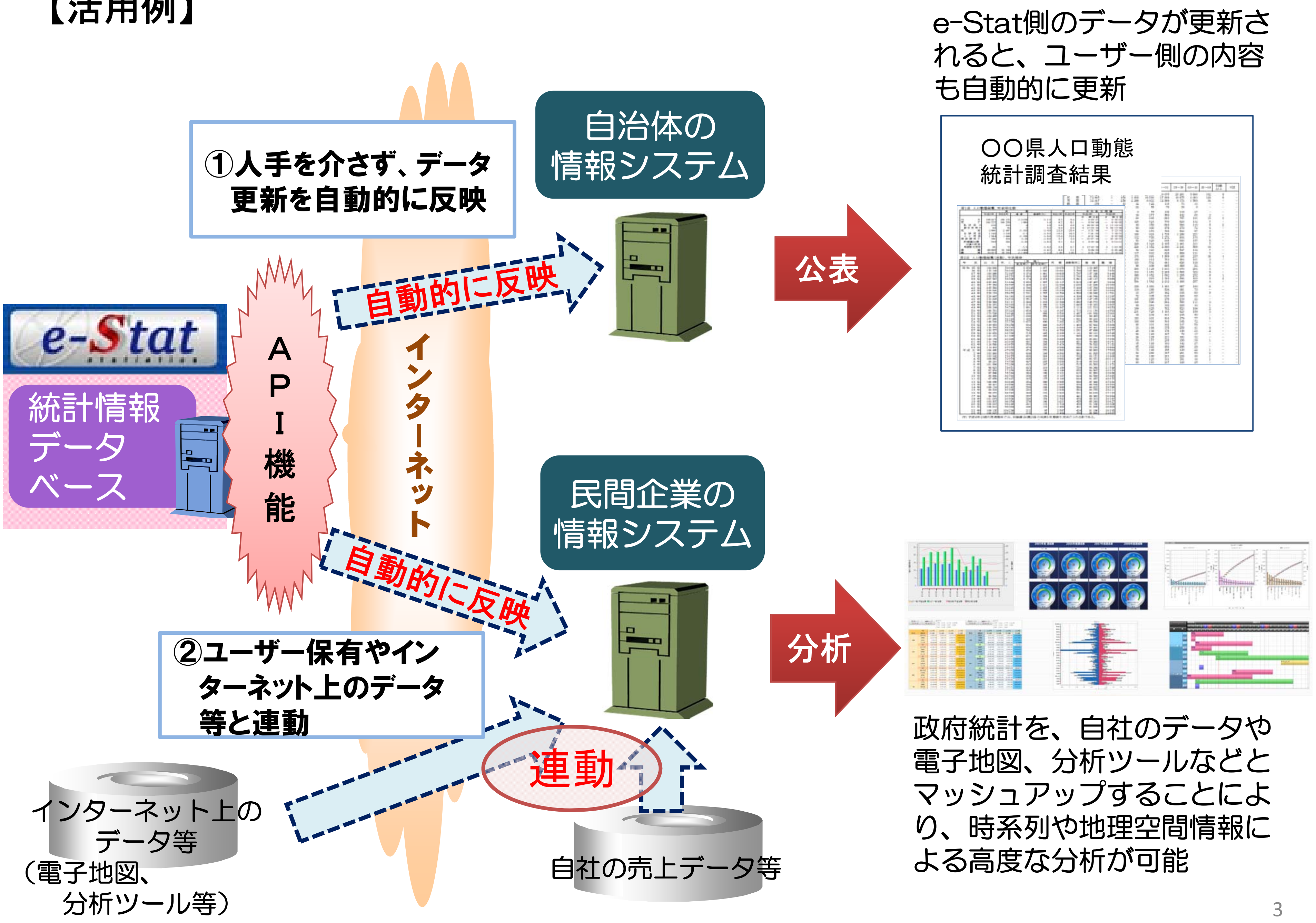
↓

▶ 統計データ利用の高度化や効率化の環境が構築され、ビジネス活性化や新規事業の開発促進、行政サービス向上などに貢献

▶ ６月上旬からユーザー登録制で試行提供を開始予定

（統計局所管の統計データによる試行提供によって機能やシステム負荷の検証を実施）

【活用例】



e-Stat側のデータが更新されると、ユーザー側の内容も自動的に更新
①人手を介さず、データ更新を自動的に反映
自治体の情報システム
公表
○○県人口動態統計調査結果
自動的に反映
e-Stat
統計情報データベース
ＡＰＩ機能
インターネット
民間企業の情報システム
自動的に反映
分析
②ユーザー保有やインターネット上のデータ等と連動
連動
インターネット上のデータ等（電子地図、分析ツール等）
自社の売上データ等
政府統計を、自社のデータや電子地図、分析ツールなどとマッシュアップすることにより、時系列や地理空間情報による高度な分析が可能

２ 統計GIS機能の強化

▶ e-Statの統計GIS機能を強化し、<u>ユーザー保有データの取り込み分析や任意に指定したエリアにおけるデータが利用可能</u>になるような機能を開発中

【活用例】 ①ユーザーの保有するデータを取り込んで分析する機能の追加
②任意に指定したエリアにおける統計算出機能の追加

▶ 本年秋を目途にユーザー登録制で試行提供を開始予定
（統計局所管の統計データによる試行提供によって機能やシステム負荷の検証を実施）

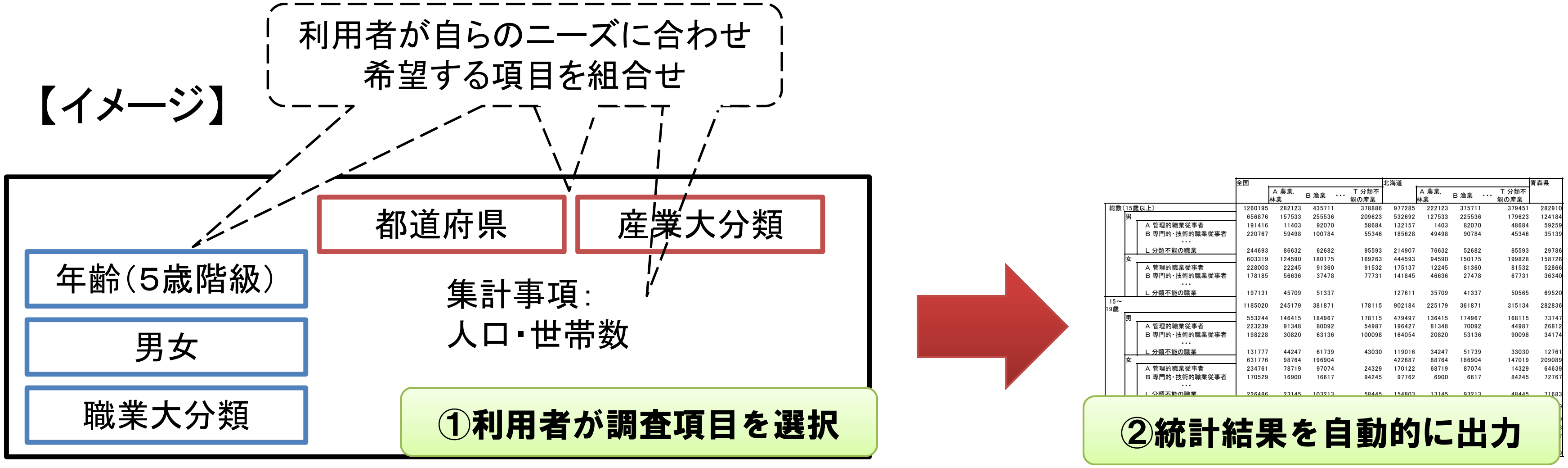
３　オンデマンドによる統計作成機能・方策の研究

▶ 公的機関や学術研究などの利用において、 利用者が調査項目を選択するだけで統計結果を自動的に出力する、新しい形の統計提供サービスを研究中

▶ これにより、既存の結果表にない任意の多重クロス集計が出力可能になり、学術研究を始めとする多様なニーズに対応

※実用化に向けては運営・制度面及び秘匿処理における検討課題がある。

【イメージ】



（参考） 統計データのオープン化の現状

総務省統計局

（平成25年5月時点）

- ▶ 統計結果は、原則インターネット上で公開

- ▶ 統計局所管統計の結果は、全て公開済み
  - ➢ データベースやスプレッドシート形式など、データとして利用可能な形式
  - ➢ 報告書には掲載しきれない結果データもインターネット上で公開

・統計結果はe-Statにスプレッドシート形式などで掲載することが原則（※）

※統計調査等業務の業務・システム最適化計画（平成18年３月 各府省CIO連絡会議決定）

・一部府省では、PDFなどユーザーが自由に編集・加工できない形式での公開にとどまる統計もある